

《文選》五臣音注における「濁音清化」現象¹

陳 小珍

CHEN Xiaozhen

内容提要：《文選》五臣音注中唇舌齒牙喉皆有清濁混切例，同一個被切字（義亦同）同時採用濁音和清音字作反切上字或直音，同文處五臣音注清濁混切但《文選音決》或李善音注不混等現象，充分說明《文選》五臣音注中濁音已經開始清化。

キーワード：《文選》 五臣音注 濁音清化

目次

1. はじめに
 - 1.1 濁音清化とは
 - 1.2 五臣注《文選》及び五臣音注の声母概況
2. 濁音字と清音字の混同例
 - 2.1 破裂音に見える混同例
 - 2.1.1 並母と幫母・滂母
 - 2.1.2 定母と端母・透母
 - 2.1.3 澄母と知母・徹母
 - 2.1.4 羣母と見母・溪母
 - 2.2 破擦音に見える混同例
 - 2.2.1 從母と精母・清母
 - 2.2.2 崇母と莊母・初母
 - 2.2.3 奉母と非母・敷母
 - 2.3 摩擦音に見える混同例
 - 2.3.1 邪母と心母
 - 2.3.2 匣母と曉母
 - 2.4 喉音の匣母と牙音の見母

¹ 本稿は「國家社科基金重大招標項目“《經典釋文》文獻與語言研究”（14ZDB097）」による研究成果の一部である。

- 3. 全濁上声字が去声化
 - 3.1 並母字の上声と去声の混同例
 - 3.2 定母字の上声と去声の混同例
 - 3.3 澄母字の上声と去声の混同例
 - 3.4 從母字の上声と去声の混同例
 - 3.5 崇母字の上声と去声の混同例
 - 3.6 常（船）母字の上声と去声の混同例
 - 3.7 匣母字の上声と去声の混同例
- 4. 結語
- 参考文献

1. はじめに

1.1 濁音清化とは

「濁音清化」は漢語音韻学史上、重要な声母変化であり、具体的に言うと、中古漢語が近代漢語へ変化する間に「並・奉・定・澄・從・邪・崇・俟・船・常・匣・羣」などの濁声母が悉く同系の清声母と次清声母に変化したことを指す。この変化が北方の官話方言で完成されたのは、近代漢語の中期だと見られている。その根拠は近代音の代表である《中原音韻》（1324年）では、既に濁声母がすべて清声母に変化しているからである。しかし、この変化がいつから始まり、どのような変化の経緯をたどったのかということは目下のところ定論がない。

筆者は五臣注《文選》における音注の声母体系を整理する過程で、濁音の被注字が清音字の反切上字・直音で音注され、清音の被注字が濁音字の反切上字・直音で音注される現象があることに気がついた。そこで本稿では五臣音注における濁音清化の状況とその特徴及びその意義について検討したい。

1.2 五臣注《文選》及び五臣音注の声母概況

五臣注《文選》は、唐玄宗開元六年（718年）に呂延濟・劉良・張銑・呂向・李周翰などの五人が当時の工部侍郎である呂延祚の統率のもとで、《文選》の解読のために作った音義書である。五臣注は世に出た後、当時の最高統治者である唐玄宗の恩賞を受けたうえ、当時の読書人の間にも流行した。その後長期に渡り、李善注《文選》とともに《文選》の注釈本として世の人に重視された。

現存する五臣注《文選》の版本はいくつかあり、単注本と合注本に大別できる。単注本としては、天理図書館蔵本（以下「天理本」と略称する）、杭州猫兒橋河東岸開箋紙馬舖鍾家刻本（以下「杭州本」と略称する）、南宋紹興31年（1161）に刊行された陳八郎刻本（以下「陳八郎本」と略称する）、朝鮮正徳四年（1509年）に刊行された朝鮮刻本（以下「朝鮮本」と略称する）の4つがある。合注本は、《文選集注》（以下「集注本」と略称する）・明州本・奎章閣本などである。

合注本には五臣音注が削除されている箇所や、李善注が混在している部分もあるため、音系研究としては単注本を用いた方が適切である。単注本のうち天理本と杭州本は残巻で、天理本は 20 巻目のみが保存され、杭州本は 29 巻目と 30 巻目だけが現存している。陳八郎本と朝鮮本はともに完本ではあるが、両者の音注はかなり異なっている。音韻研究においては朝鮮本が既存の版本の中で最も優れていると考えている²ため、本稿では朝鮮本を最も重要な研究資料と見なして、その他の版本を補完資料とした。

目下の整理、研究で明らかになった結論として、五臣音注は四十一個の声母を持つ、即ち「幫滂並明，非敷奉微，端透定泥來，知徹澄娘，精清從心邪，莊初崇生俟，章昌船（常）書日，見溪羣疑，影曉匣云以」である。本稿は主に破裂音「並・定・澄・羣」，破擦音「從・奉・崇」，摩擦音「邪・匣」合計九個³の濁聲母と同系の清音字の混同例について検討したい。

2. 濁音字と清音字の混同例

2.1 破擦音に見える混同例

2.1.1 並母と幫母・滂母

分析対象としたのは並母 165⁴字，幫母 141 字，滂母 100 字である。濁音と清音の混同は 11 例で，約 2.7%を占める。その内，

並母が幫母と混同するのは 1 例：

被注字	《王三》 ⁵	五臣音注
04189 ⁶ 陂	《集》逋禾	婆（薄何） ⁷

² 拙作「再議五臣注《文選》諸版本的音注問題」（『開篇』vol.32 2013: 69）

³ 「俟・船（常）」がそれぞれの同系清音字と混同する例は現れていないので，本稿では検討しない。また，破裂音・破擦音・摩擦音などの分類は中古前期の声母の音価に基づく。

⁴ 五臣音注は単に音声を注釈するだけでなく，字義の釈明，あるいは通用字・仮借字を使用した字音もある。疑義がある音注は本稿の研究対象から除外したため数字は概数である。以下同。

⁵ 《王三》には収録されない被注字あるいは意義を区別できる又音は《広韻》か《集韻》を参照した。その場合は《広》か《集》と表記している。以下同。

⁶ 五臣注《文選》は全部で 30 巻あり、朝鮮本各巻の音注には通し番号を振っている。各番号の数字 5 個のうち、左より 2 桁は巻号を表し、その後の 3 桁は音注数を表している。例えばこの「04189」は 4 巻目の 189 番目の音注を指す。以下同。

⁷ 「陂」は同じ「陂陁」のフレーズで《集韻》には「蒲波（幫歌開一平果）」の反切もあり、しかし 17 巻 171 陂は波（博何幫歌開一平果）で音注され、これに対し、4 巻 189 「陂，婆」は濁音と清音の混同例だと判断した。

並母が滂母と混同するのは1例：

被注字	《王三》	五臣音注
24167 俾	《広》普耕	蒲萌

幫母が並母と混同するのは5例：

02143 炮	薄交	包（布交）	03254 琲	蒲罪	補對
04045 被	皮義	彼義	04210 埤	苻支	卑（《広》府移）
04660 獮	符鄰	賓（必鄰）			

滂母が並母と混同するのは4例：

02025 呬	符悲	披（敷羈）	02318 韜	扶萌	普耕
02600 泊	傍各	普各	17039 擗	房益	普覓

2.1.2 定母と端母・透母

定母 237 字，端母 87 字，透母 91 字の中で，濁音と清音の混同は 14 例あり，約 3.4% を占める。その内，

端母が定母と混同するのは4例：

02438 憚	徒旦	丁達	04530 憚	徒旦	丁曷
17210 憚	徒旦	丁達	25023 憚	徒旦	丁達

透母が定母と混同するのは2例：

01317 廷	特徑	他頂	02353 鶴	《広》杜奚	吐雞
---------	----	----	---------	-------	----

定母が透母と混同するのは7例：

01316 穰	他弔	徒弔	02203 稌	他古	徒戸
02368 稌	他古	肚（徒古）	03565 稌	他古	徒五
04532 他	託何	徒何	05022 鞞	他閑	沓（徒合）
18144 稌	他古	肚（徒古）			

定母が端母と混同するのは1例

04480 蛭	丁結	姪（徒結）
---------	----	-------

2.1.3 澄母と知母・徹母

澄母 113 字，知母 53 字，徹母 65 字の中で，濁音と清音の混同は 4 例あり，約 1.7% を占める。その内，

澄母が徹母と混同するのは2例：

12018 仲	敕中	直中	6246 沖	《広》敕中	沖（直隆）
---------	----	----	--------	-------	-------

知母が澄母と混同するのは2例：

06078 柱	直主	駐（中匂）	17279 柱	直主	陟羽
---------	----	-------	---------	----	----

2.1.4 羣母と見母・溪母

羣母 149 字，見母 404 字，溪母 161 字の中で，濁音と清音の混同は 15 例あり，約 2.1% を占める。その内，

見母が羣母と混同するのは8例：

01303 桀	渠烈	居列	03474 崛	衢物	君屈
04027 偈	渠烈	居竭	17325 窘	渠殞	寄殞
22005 懼	其遇	久具	24012 躡	其虐	腳（居灼）
26018 懼	其遇	匂（俱遇）			

溪母が羣母と混同するのは5例：

09097 菌	渠殞	去筠	9376 菌	渠殞	去倫
17266 菌	渠殞	丘貧	21057 拳	巨員	丘辨
23039 噤	渠飲	欺稟			

羣母が溪母に混同するのは2例：

05254 屈	區物	求勿	06556 躡	去奇	巨眉
---------	----	----	---------	----	----

2.2 破擦音に見える混同例

2.2.1 從母と精母・清母

從母 102 字，精母 186 字，清母 127 字の中で，濁音と清音の混同は 5 例あり，約 1.2% を占める。その内，

從母が精母と混同するのは2例：

02011 躡	資亦	籍（從昔）	10010 霽	子計	才細
---------	----	-------	---------	----	----

從母が清母と混同するのは1例：

04229 備	倉見	牆練 ⁸
---------	----	-----------------

精母が從母と混同するのは2例：

02138 摧	《広》昨回	祖回 ⁹	04340 疵	疾移	賞（即移）
---------	-------	-----------------	---------	----	-------

⁸ 李善音注は「千見」であり、清音字に属する。

2.2.2 崇母と莊母・初母

崇母 52 字， 莊母 38 字， 初母 38 字。その内， 崇母が初母と混同するのは僅か 1 例：

09327 鈔	楚莖	士耕
---------	----	----

2.2.3 奉母と非母・敷母

奉母 86 字， 非母 29 字， 敷母 35 字の中で， 濁音と清音の混同は 5 例であり， 約 4.6% を占める。その内，

奉母が敷母と混同するのは 4 例：

01292 秀	撫云	汾（符分）	24092 祓	敷物	夫勿
04090 菲	敷物	房勿	06505 肺	芳廢	扶廢

奉母が非母と混同するのは 1 例：

05085 黼	《広》方矩	輔（扶雨）
---------	-------	-------

2.3 摩擦音に見える混同例

2.3.1 邪母と心母

邪母 42 字， 心母 193 字の中で， 濁音と清音の混同は 1 例である。

2 卷 305 濫	《広》徐刃	想胤
-----------	-------	----

2.3.2 匣母と曉母

匣母 294 字， 曉母 214 字の中で， 混同するのは 5 例で、約 1% を占める。

06309 法	《広》戸萌	火宏 ¹⁰	07007 耽	戸萌	呼宏
09360 耽	戸萌	呼宏	16105 溷 ¹¹	胡困	呼本
23065 墟 ¹²	許交	乎交			

2.4 喉音の匣母と牙音の見母

濁匣母は全清曉母との混同だけではなく、牙音の全清見母との混同も散見でき、例えば：

3 卷 393 渾	胡本	故本	6 卷 387 湍	古穴	胡決
-----------	----	----	-----------	----	----

牙音と喉音が密接な関係にあることが窺える。

⁹ 李善音注は「徂回」であり、濁音字に属する。。

¹⁰ 李善音注は「宏」であり、濁音字に属する。。

¹¹ 同じ「溷濁」のフレーズでは 9 卷 625 と 30 卷 048 溷の反切は「胡本」、17 卷 057 と 17 卷 080 の溷は「胡困」である。

¹² 同じ「墟闕」のフレーズでは 29 卷 025 墟の反切は「呼交」である。

3. 全濁上声字が去声化

全濁上声字の去声化は漢語音韻史上で重要な声調変化である。《切韻》系韻書の全濁音声母並・奉・定・澄・從・崇・船・常・羣・匣・邪など 11 声母の上声が去声に変化することを指す。五臣音注には既に全濁上声字の去声化の現象が見られる。

3.1 並母字の上声と去声の混同例

	並上	並去		並上	並去
01604 圮	符鄙	備(平祕)	18027 標	符小 A	避曜 A
29060 標	符小 A	驃(毗召) A	17021 隄	<浮鬼>	符沸
03254 璫	蒲罪	補對			

3.2 定母字の上声と去声の混同例

	定上	定去		定上	定去
01132 澹	徒敢	達濫	10042 澹	徒敢	徒濫
17267 澹	徒敢	徒濫	26053 袒	徒旱	徒旦
09189 殄	徒典	電(堂見)	05054 掉	徒了	田曜

	定去	定上
08151 宕	杜浪	蕩(堂朗)

3.3 澄母字の上声と去声の混同例

	澄上	澄去		澄上	澄去
04562 俯	直里	值(直吏)	06078 柱	直主	駐(中句)

	澄去	澄上		澄去	澄上
09387 植	直吏	雉(直几)	03623 耐	直枯	遲有

	澄上	澄去
03510 朕	直稔	遲胤 ¹³

¹³ 李善音注は「直軫」であり、去声化はまだ起きていない。

3.4 従母字の上声と去声の混同例

	従去	従上		従去	従上
04103 靚	疾政	静（疾郢）	04541 靚	疾政	静（疾郢）
21107 倩	七政	七靖	23136 靚	疾政	静（疾郢）

3.5 崇母字の上声と去声の混同例

	崇上	崇下
01422 槎	士下	乍（鋤駕）

3.6 常（船）母字の上声と去声の混同例

	常上	船去		常上	常去
29041 眠	<承矢>	食至	29094 販	時忍	慎（是刃）

	常去	常上
26001 召	寔曜	紹（市沼）

3.7 匣母字の上声と去声の混同例

	匣上	匣去		匣上	匣去
18008 嶰	鞞買	胡賣	06431 澣	胡管	扞（胡旦）
03051 湏	胡孔	胡貢	02618 駭	諧楷	行戒
09455 皖	戸板	患（胡慣）			

	匣去	匣上		匣去	匣上
10016 潰	胡對	胡隗	07133 行	下浪	胡朗
05288 溷	胡困	混（胡本）	09625 溷	胡困	混（胡本）
16105 溷	胡困	呼本	30048 溷	胡困	胡本

上掲表からわかるように、五臣音注の並・定・澄・従・崇・常（船）・匣の7韻母には上声と去声の互用例が見られ、それは蟹摂・咸摂・山摂・止摂・効摂・通摂・假摂・遇摂・流摂・梗摂・臻摂の11摂に及んでいる。このことから五臣音注では全濁上声字の去声化が既に発生していると判断して差し支えないだろう。従って、五臣音注には「濁音清化」が可能になる。

4. 結語

一、「濁音清化」は五臣音注の中で既に広がっていると断言できる。まず、上掲の例から見られるように、五臣注《文選》における濁音と清音の混同例は四声すべてに分布し、唇・舌・歯・牙・喉の五音にも及んでいる。次に、同じ濁音の被注字が清音字と濁音字両方の反切上字か直音で音注されている。例えば「叫篠」のフレーズについて1巻316篠の反切は「徒弔」、6巻063篠は「他弔」であり、「徑廷」のフレーズでは1巻317廷の反切は「他頂」、27巻088廷は「定」の直音を付けされ、「憂」の釈義については12巻018仲の反切は「直中」、17巻009仲は「勅忠」などである。また、同文の場合、五臣音注では濁音と清音が混同していても『文選音決』あるいは李善音注では明確に区別されていることもある。例えば、3巻254濁音字「琲」（蒲罪）に対して、五臣音注の反切は「補對」で、清音字「補」を反切上字にしたが、『文選音決』の反切は「歩罪」で、濁音字「歩」を反切上字に選択した。7巻007濁音字「耽」（戸萌）について五臣音注の反切は「呼宏」で、清音字「呼」を反切上字に、李善音注は「侯萌」で、濁音字「侯」を反切上字に使った。

二、上掲混同例の比率から見ると、破裂音の濁音清音化の傾向がもっとも強く、次に破擦音があり、摩擦音の例は非常に少ない。濁音字が清音化した例の半数程度は「平聲送氣，仄聲不送氣」¹⁴の規則に沿っていない。はじめに述べたように、五臣注《文選》は唐玄宗の恩賞をたまわったこともあり、一時期広く流行したことから考えれば、五臣音注が基にした方言は当時の都である長安を中心とした北方地域の官話方言のはずである。徐之明氏（2001:79）も“五臣音反映的也許正是八世紀較為通行的實際讀書音”（筆者訳：五臣音注が反映しているのは恐らく八世紀に比較的一般に行われていた実際の讀書音である）と論じた。しかし、五臣音注における濁音清化の状況が官話方言の変化となぜ相違しているのか、この相違が意味するところは何か、などさらに検討すべきである。

三、上述のように、五臣音注には「濁音清化」という変化が既に存在しており、濁音と清音の混同の比率も軽視してはならない。隋唐の時代、特に唐代の文献には多少濁音と清音の混同例が見出せる。丁鋒氏（1995:37）“《博雅音》，周隋唐梵漢對音清濁相混，標誌濁音清化在六朝隋唐之際已經開始，到唐五代西北音濁音完全消失，併入相應清聲母，以此為例，濁音清化大致經歷了四個世紀。”（筆者訳：《博雅音》および周隋唐梵漢の對音における濁音と清音の混同は、濁音清化が六朝隋唐時代から既に始まっており、唐五代西北音に至って濁音が完全に消え、対応する清聲母に合流したことを示している。このことから濁音清化の過程は概ね四百年かかったことになる。）と指摘している。五臣音注の濁音と清音の混同は正に「濁音清化」の發展段階に当てる。この事象は唐玄宗時代の実際の語音を反映していると考えられる。

¹⁴ これは濁音清音化の重要な規則であり、破裂音・破擦音における濁音字が平声である場合は有気音となり、仄声である場合は無気音となることを指す。

参考文献

(梁)蕭統編 (唐)呂延濟等五臣注《文選》(朝鮮本)東京大学東洋文化研究所所藏漢籍善本全文影像資料庫 http://shanben.ioc.u-tokyo.ac.jp/main_p.php?nu=D7811000&order=rn_no&no=01706

(梁)蕭統編 (唐)呂延濟等五臣注《文選》(陳八郎本)台北永嘉室 1981年

(梁)蕭統編 (唐)李善注《文選》(胡刻本)中華書局 1977年

龍宇純《唐寫全本王仁昫〈刊謬補缺切韻〉校箋》香港中央大學出版社 1968年

(宋)陳彭年等編《宋本廣韻·永祿本韻鏡》江蘇出版社 2005年

(宋)丁度等編《集韻》上海古籍出版社 2017年

周助初《唐鈔文選集註彙存》上海古籍出版社 2000年

徐之明〈《文選》五臣音聲類考〉貴州大學學報 2001年

丁鋒《〈博雅音〉音系研究》北京大學出版社 1995年